

# 2022 年度第3回ルール委員会議事録

開催日時:2023年3月11日(土)12:00~12日(日)12:00

開催場所:静岡県静岡市県男女共同参画センターあざれあ特別会議室

参加者 :増田委員長、加藤副委員長、今津副委員長、藤井副委員長、古川委員、  
石川(雅) 委員、岡部委員、富松委員、木内委員、日下部委員、高野委員、  
松原委員、林委員、渡辺(勝)委員、稲葉委員、田中委員、柴沼委員、榛葉委員、  
中野委員、三輪委員、山口委員、渡邊(範)委員、大村委員、富田委員  
前園委員、宮崎委員、石川(彰)委員、鳥取事務局員  
村松顧問委員※順不同計 29名(オンライン含む)

【記】石川彰

はじめに ルール委員坂元善行さん、東北大震災3. 11で亡くなられた方々に黙祷

増田委員長御挨拶

## 1. <報告> 2023 年度事業・予算について 増田委員長

事業 1) ルール関連資料の翻訳・発行

事業 2) 国際ジャッジ・アンパイアの育成

事業 3) ナショナル・ジャッジ/アンパイア講習会の開催

事業 4) ナショナル B 級ジャッジ認定

事業 5) 競技規則の普及

事業 6) 指導者育成支援

事業 7) アンパイア制レース普及支援

事業 8) 外洋艇レース普及支援

事業 9) カイトボード大会へのジャッジ派遣

事業 10) NNU 実績システム開発

事業 11) IU セミナーの招致

11 の事業についての内容、事業の狙いなど報告がなされた。詳細については各小委員会からの説明とする。

2023 年度の計画については各小委員会ご協力のもと作成した。予算については各事業ごとに予算要求した。査定を受けた部分もあるが概ね要求通りの結果となった。各事業の進行状況をみて補正予算なども検討していきたい。目新しい部分では成果を計る指標・成果物が加えられ年度末には各事業について結果を示さなければならない。

## 2. <協議>ジャッジが処分された場合の委員会の対応について 柴沼委員

ジャッジやアンパイアが JSAF から処分された場合の、ルール委員会の対応について協議が行われた。

ルール委員会独自で処分ができるのかどうか、会員資格の問題、戒告処分や譴責処分、更には本人からの異議申し立てなどいろいろなパターンがある中で、ルール委員会としてジャッジやアンパイア処分が出た場合機敏な対応をするため議論を深めていかなければならないのではないか。

ジャッジやアンパイアが処分される可能性のある事案については、以下が考えられる。

1, JSAF 倫理規程に違反する行為があったとして、JSAF に告発され何らかの処分を受けた場合、 2, 公認スポーツ指導者の資格を所有する者が、JSPO から当該資格の制限

等の処分を受けた場合、 3、 関連する団体等（所属する加盟団体、 特別加盟団体、 クラブ、 地方スポーツ協会、 WS 等） から何らかの処分を受けた場合、 又は推薦取消／撤回の文書がルール委員会に提出された場合 4、 上記の事案について処分等が調査・ 審議中又は異議申し立て等で係争中である場合。

その他・ 増田委員長から JSAF で懲戒処分をくだしたら WS に報告する義務がある、 また、 WS の処分の概要については、 ホームページで公開されているとの情報提供があった。

- ・ 委員からは公表してもらわなければ役員選任指名の判断基準の材料がない。
- ・ 処分が出るまでジャッジをしても問題ないのか。
- ・ JSAF コンプライアンス委員会にも様々な問題が上がってきている。

などの意見・ 報告があった。

→ 本件については、 引き続き検討することとした。

### 3. <ケース研究>

#### 3-1 スカル 松原委員

スカルに対する基準認識について問題提起があった。

スカルに対して個々判断基準が違うのではないかと、 また、 水域でも違うことが散見される。 スカルを取る場合のパターン、 どのような時に取るのか、 例えば力強い筋力を使つてのスカル又は艇をその位置にとどめる場合さらには艇種によっても認識の違いがたくさんある。 スカルの定義はあるが、 取れないこともある。 どのような場面でスカリングを取れるのか議論した。 今後も過去のレースのスカリング違反を検証し議論を継続する。

#### 3-2 規則69適応ケース 石川(雅)委員

ある大会で抗議に関する交渉を持ち掛けたことに対する 69 条判決事例について概要などの説明があり、 質疑が行われた。

#### 3-3 規則77、 付則 G1 セールの識別について 日下部委員

セールナンバーの識別に関するルール変更の周知及び警鐘の説明 (RRS 規則 77、 付則 G1.2 (a)(3) 周知及び警鐘のお願い (OSR4.01.1 関連)) セールの色とナンバーの色が同色に近いものも多く見られるなかで艇を識別しづらくなっている。 この件は 2 年前からお願いをしているがなかなか直らない、 コントラストなど数値化的なものが無いので難しい問題であるが引き続き関係各位に注意喚起の継続をすることとする。

#### 3-4 救済要求、 審問の再開要求のための審問の必要性について 増田委員長

ある大会で救済要求の判決に対する審問再開要求に対しての概要などの説明があり質疑が行われた。

#### 3-5 新型コロナ5類移行後の審問のあり方の方針について 渡邊委員

新型コロナ収束に伴い審問のあり方、 開催方法について意見交換、 認識の共有を図った。

#### 3-6 Hong Kong RaceWeek におけるレース中止事例 田中委員

時間の関係で次回持ち越しとなった。

### 4. <報告>小委員会活動報告・ 計画

#### 4.1 ジャッジ小委員会 古川小委員長

次のとおり報告された。

- ・ A 級ジャッジ認定講習会 2023 年 1 月 28 日(土)~29 日(日) 佐賀県ヨットハーバー (受講者 15 名、 合格者 9 名)
- ・ B 級ジャッジ認定講習会支援、 愛知 (対面 2023/3/4)、 兵庫 (対面 2023/2/26)、 東京 (対面 2023/2/12)、 江ノ島(対面 2023/01/22)、 京都府セーリング連盟 (Web、 2022/12/25)
- ・ ジャッジ資格保有者のレベル向上ジャッジ・ クリニック西宮 2023/02/04、 福岡

2023/02/12、広島 2023/02/19、東京 2023/02/26、愛知 2023/03/05、北海道 2023/03/18  
・B級ジャッジのためのステップアップセミナー滋賀 2023/01/22、福岡 2023/02/19、  
室蘭 2023/02/26 東京 2023/03/05、関上 2023/03/21、愛知 2023/04/01

- ・情報公開・管理 WS Q&Aサービス Q&A010 まで翻訳作業中
- ・クラス別最も一般的な規則 42 違反、規則 42「推進方法」の解釈・スナイン版を翻訳し、HP にアップ (2023/12/19)
- ・ケース・ブック アプリ版ケース・ブックの誤訳修正 (RRS の修正に合わせて実施)  
ケース・ブック正誤表を作成し、HP にアップ(2023/01/05)
- ・ジャッジ・マニュアル製本終了。ルールのお店にて販売開始(2023/01)
- ・その他の規約・「World Sailing ウィンドサーフィンフリートレース ルール解説 2021」を翻訳し、ルール委員会ホームページ(レース・オフィシャルズ・マニュアル等)にアップ (2023/01/11)

#### 4.2 アンパイア小委員会 今津小委員長

- ・NUの現状 2023年03月01日現在、NUの総数は26名。  
2022年度の活動報告・フリートレースアンパイアマニュアルの日本語版完成。
- ・新規 NU の育成
- ・フリートレースアンパイアリング講習会の実施、出席者 NU 8名
- ・マッチレースコールブック日本語版の翻訳完成
- ・2022年度 NU 認定講習会・試験 12月の伊藤園クリスマスマッチ(葉山マリーナ)で実施。座学と試験 12/16 実技講習とアセス 12/17-18
- ・2023年度の展望として・グローバルチームレース(2v2) 昨年は、7月にアメリカのニューポートで開催され、日本からナショナルチームを派遣したが今年、9月にイギリスにて開催されることが決定し、日本にも案内が届いている。昨年同様、ナショナルチームにて参戦することが内定。
- ・ユースマッチレース U22 世界選手権(2023/12月 豪州 シドニー)が開催される。今年の大学&U25 マッチレースにて、年齢の参加資格のある選手が優勝したこともあり彼らを日本(JYMA:マッチレース協会)から推薦することを検討中。
- ・近い将来、日本におけるIUセミナーの実施を検討したい。候補とされる大会は、2月末~3月初旬に開催予定の大学&U25 マッチレース。開催を検討する前提として、日本のIU候補を育成することが必須と考えている。
- ・2023年度 NU 認定講習会、試験 年末の伊藤園クリスマスマッチを実技アセスの機会として実施することを検討中。候補者は、今のところ1名。年末に間に合うよう、資格条件を整え、知識、技術を高める機会を供与する予定。
- ・2023年 アンパイア制 レースイベント、マッチレース、チームレース、フリートレースを開催予定。

#### 4.3 IJ・IU育成小委員会 増田小委員長

世界に通用するジャッジ・アンパイアを発掘・養成することで、ナショナルオーソリティとしての世界での地位向上と国内レースの質の向上を図るとし、重点課題としてIUセミナー招致を計画、IJセミナー@韓国情報収集・早期展開、規定・手引きなどの見直し・整備、その他の活動計画としてIJ/IU候補者の発掘・育成、国際大会への日本人IJ/IU候補者の渡航支援、国内の国際大会への日本人IJ候補者の派遣等報告がなされた。

#### 4.4 外洋規則小委員会 日下部小委員長

2022年度の総括の後、活動計画として外洋艇のレース特有かつ重要なRRS, OSR等の関係規

則の関係者への周知、外洋レース普及の支援、外洋レースジャッジの発掘、育成等報告があった。特に JSAF 非会員ヨットクラブ主催レースに出向き支援を行うことについては非会員はそもそも RRS の使用は認められないため加盟団体との共同主催とするなど工夫が必要、ルール委員会として間違ったメッセージを出さないよう慎重に対応すべきとの意見もあった。

#### 4.5 規程管理小委員会 藤井小委員長

活動計画とその実施状況として（１）RRS 付則および試行規則並びに WS 規定の翻訳（２）ドキュメントの翻訳（３）RRS の緊急海底および正誤対応（４）サブミッションの新規提案および意見形成（５）次期 RRS の翻訳に向けた事前準備（６）WS の新規・更新ドキュメントの継続ワッチ（７）JSAF 総務委員会議事録のチェック（８）ルール委員会が所管する規程等の管理（９）各種 WG への参画等報告があった。

#### 4.6 普及小委員会 加藤小委員長

今年度の活動報告として、主にルール講習会の実施状況について報告された。

初級・中級・上級の３つのレベルの講習材料により実施した。

開催日時をルール委員会で設定して、１月と２月にそれぞれ１回ずつ（計６回）実施。

概ね３００名の受講者数となったが、１つの申込で複数の受講も可としていたため、正確な受講者数の把握が困難。

受講後にアンケートを実施したが、回答数が１９０人で約４０％の未回答者がいることから正確な受講者数の把握は今後も課題となると思われる。

終了後アンケート調査を実施したところ、高校生や大学生の他に指導者も多数受講しており指導者層のニーズの高いように見受けられた。

一方、アンケートへの回答した人が指導者に偏っている可能性もあり、アンケート結果の分析も留意が必要と思われる。

また、受講の理由として「ルールをもっと知りたい」が多くを占めている。講習会の講師の評価についても大半が良いとの結果だった。

今後の進め方・予定として、アンケート結果を精査・課題を抽出し、来年度の事業に反映するとともに、ルール検定制度の制度設計について具体的に検討していくとの報告があった。

#### 5.1 事務局からの報告 加藤事務局長

ジャッジ、アンパイアの資格取得状況（性別・年齢・居住地）について報告があった。

NJA215名（男性205名、女性10名）、NJB742名（男性603名、女性139名）、

NU26名（男性24名、女性2名）

最後に今津副委員長の御挨拶で閉会した。

以上